

小 学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

目 次

I 研究主題設定の理由	1
II 研究のねらい	1
III 研究の視点	
1 研究主題について	2
2 研究構想図	4
IV 研究仮説	4
V 研究の方法	4
VI 研究の内容	4
1 基礎研究	4
2 調査研究	5
3 研究主題に迫る手だて	7
4 実践事例	
(1) 第5学年	主題名：謙虚に広い心をもって B 相互理解、寛容 資料名：「ブランコ乗りとピエロ」 8
(2) 第4学年	主題名：命あるものを大切にする D 生命の尊さ 資料名：「人間愛の金メダル」 12
(3) 第3学年	主題名：友達だからわかってくれる B 友情、信頼 資料名：「およげないりすさん」 16
(4) 第1学年	主題名：しょうじきな心 A 正直、誠実 資料名：「あのね」 20
VII 研究の成果と課題	24

研究主題

他者と伝え合い、自己の生き方について考えを深める道徳科を目指して

～「考える道徳」、「議論する道徳」の指導を通して～

I 研究主題設定の理由

義務教育における道徳教育の在り方については、現在、大きな転換期を迎えている。

我が国では、昭和33年の道徳の時間の特設以来、学校生活全体を通して児童に道徳的実践力をはじめとした道徳性を養ってきた。近年では、道徳教育推進教師を設置し、指導体制の充実を図るとともに、東京都独自の道徳授業地区公開講座を行うことで、道徳教育の推進を図ってきた。また授業においては、資料を基にして、話し合いの中で道徳的価値の理解を深める指導を行い、一定の成果を上げてきた。

しかし、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成27年7月）では、道徳の時間が「他教科に比べて軽んじられていること、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど、多くの課題が指摘されている。道徳教育は、児童の人格の基盤となる道徳性を養う重要な役割があることに鑑みれば、これらの実態も真摯に受け止めつつ、その改善・充実に取り組んでいく必要がある」と示されている。さらに今後、グローバル化の進展、深刻化するいじめ問題、科学技術の発展、社会・経済の変化などといった多様化していく課題に対応していくためには、児童一人一人に、これからの時代を生き抜いていくための力が必要である。大きく変化していく社会環境の中で、児童が現実の困難な問題に、主体的に対応することのできる力を育成していくことが、これからの道徳教育には強く求められている。

そのためには、学校における道徳教育の目標である「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を実現していくことが、これまで以上に重要であると考えられる。

平成30年度から全面実施される特別の教科 道徳（以下「道徳科」という。）の授業においても、これまでのように読み物の登場人物の心情理解や道徳的諸価値の理解を重ねていく。加えて、教師や他の児童との対話や討論などを行いつつ、児童一人一人が物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめ、生き方について考えを深めていく学習を大切にしたい。児童がこれからの課題や目標を見付けたり、問題解決的な学習を行ったりすることで、児童が主体的に学習に取り組み、道徳性を養えるようにしていきたい。

そこで私たちは、児童が自分の考えを他者と伝え合う活動を通して、自分自身を見つめ、自己の生き方について考えを深めることのできる道徳科を目指し、研究主題を「他者と伝え合い、自己の生き方について考えを深める道徳科を目指して」と設定した。また、副主題を『「考える道徳」、『議論する道徳』の指導を通して』とし、授業の中で道徳的価値について「考える・議論する」場面を意識的に設けていくこととした。

II 研究のねらい

児童が互いに道徳的価値について様々な考えを伝え合う中で、今までの自分を振り返り、「よりよく生きていきたい。そのために自分はどのように行動すべきか。」と、これからの自分自身の生き方についての課題や目標を見付け、様々な問題に対応し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳の時間を追究していく。

Ⅲ 研究の視点

1 研究主題について

他者と伝え合い、自己の生き方について考えを深める道徳科を目指して
～「考える道徳」、「議論する道徳」の指導を通して～

これまでの道徳の時間において、多様な話し合い活動を取り入れることで道徳的価値の理解を深める成果を上げることができた実践がある。その反面、教師の一方的な価値の押し付けや、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりする現状もあり、中央教育審議会により平成26年10月21日に「道徳に係る教育課程の改善などについて（答申）」において、指導の格差について指摘された。

そこで、学習指導要領の改訂に伴い、道徳科の目標が次のように具体的に示された。

「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

それを受けて、本部会では、研究主題を以下のように捉えた。

(1)他者と伝え合う

考えを他者と伝え合うためには、自分の考えを伸び伸びと表現できる雰囲気が必要である。

そのためには全教育活動の中で、教師と児童、また児童相互の信頼関係の構築が重要となる。その上で道徳科の授業においては、教材を通して、児童が多様な考えを表現したり、聞いたりするなどの交流を通して、教師がねらいとしている道徳的価値の理解を深めることが大切である。

(2)自己の生き方について考えを深める

伝え合う中で深めた道徳的価値に対して、児童が自分のこととして受け止め、自分の経験に照らし合わせて、考え方や感じ方を考えることができるような発問を吟味し、児童の書く時間を十分に確保する。そうすることで自分の経験を想起し、見付けた課題に対してどう対処すべきかを考えたり、自己の願いを実現しようとしたりする児童が育つと考える。

このような指導を積み重ねていくことで、将来様々な問題に直面した際に、一人一人が多角的に考え、どうすればよいかを判断し、適切に行動するための資質・能力を養うことができるのではないかと考え、研究を進めていくこととした。

2 研究構想図

社会情勢

- ・いじめ問題の深刻化
- ・グローバル化、情報化社会
- ・多様な価値観の存在

児童の課題

- ・生命を尊重する心や自尊感情の乏しさ
- ・困難な問題に主体的に対処することが難しい
- ・生活習慣の乱れ、社会性の欠如

小学校 学習指導要領 特別の教科 道徳「第1 目標」

第1章総則第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

目指す児童像

自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする児童

研究主題

他者と伝え合い、自己の生き方について考えを深める道徳科を目指して
～「考える道徳」、「議論する道徳」の指導を通して～

研究仮説

道徳の時間（道徳科）において、児童が話し合い活動を通して多様な考えに触れ、ねらいとする道徳的価値について深く考えさせることによって、自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする児童を育てることができるだろう。

基礎研究

- ・道徳科における言葉の定義付け
- ・「考える」
- ・「議論する」

調査研究（対児童）

- ・道徳の時間における「伝え合い」、「考えを深める」ことに関する実態調査

研究の柱

ねらいとする道徳的価値に
関する実態把握と活用

考えを深める工夫

議論する工夫

全教育活動の取組

一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気構築

教師と児童の信頼関係の構築

児童相互の人間関係の構築

授業研究

5年(7月)	4年(9月)	3年(10月)	1年(11月)
謙虚に広い心をもって B 相互理解、謙虚 「ブランコ乗りとピエロ」	人の命を大切にする D 生命の尊さ 「人間愛の金メダル」	友達だからわかってくれる B 友情、信頼 「絵葉書と切手」	正直な心 A 正直、誠実 「あのね」

IV 研究仮説

道徳の時間（道徳科）において、児童が話し合い活動を通して多様な考えに触れ、ねらいとする道徳的価値について深く考えさせることによって、自己を見つめ、他者と共によりよく生きようとする児童を育むことができるだろう。

V 研究の方法

1 基礎研究	2 調査研究	3 授業研究
○道徳科における言葉の定義付け ・「考える」 ・「議論する」	○道徳の時間における「伝え合い」、「考えを深める」に関する実態調査（児童対象）	○「考える道徳」、「議論する道徳」の指導の工夫 1 ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用 2 考えを深める工夫 3 議論する工夫

VI 研究内容

1 基礎研究

児童が他者と伝え合うことで、他者と共によりよく生きようとする心を育むために、研究副主題の「考える道徳」、「議論する道徳」の捉え方について、学習指導要領・参考文献・先行研究および小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成27年7月）を基に考察し、本研究で協議し、共有化を図った。

研究主題を「他者と伝え合い、自己の生き方について考えを深める道徳科を目指して」と設定し、その中でも特に「伝え合い」、「考えを深める」ということに着目した。話し合い活動を通して多様な考えに触れさせることができれば、自己を見つめ、他者とともによりよく生きようとする児童を育むことができると考え、副主題を「『考える道徳』、『議論する道徳』の指導を通して」とした。

(1)道徳科における「考える」とは

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成27年7月）を基に、道徳の時間における児童が考える姿を以下のように考えた。

- ・道徳的価値に気付き、知り、深めている姿
- ・登場人物の心情を自分に照らして考えている姿
- ・道徳的価値に対して自分自身の経験を振り返っている姿
- ・道徳的価値に関する他者の意見を聞き、多様な考えの中で、自分の考えを再考している姿

これらを通して、自己の生き方について考えを深めることができると捉えた。そのために、資料提示、発問の精選、ワークシートの活用、話し合いの場の設定などを充実させていく必要がある。

(2) 道徳科における「議論する」とは

児童が自己の生き方について考えを深めるためには、これまでの自分の経験やその時の考え方・感じ方とねらいとする道徳的価値とを照らし合わせるだけでは、多様な価値観の存在を認識することができない。自己の生き方について考えを深め、よりよく生きていこうとする力を育むためには、自分一人の経験のみを振り返るだけでなく、自分とは異なる経験、異なる価値観をもっている人と話し合うことを通して、広い視野で物事を考えられるようにすることが必要である。今までの道徳の時間では、教師と児童の一問一答のやり取りに終始する授業も見受けられた。このような授業を改善し、互いの存在を認め尊重し、意見を交流し合う授業にしていく必要がある。

道徳科における、話し合う活動は、道徳的価値の理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えて判断し、表現する力を育むことを目指す活動である。よって、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成27年7月）に示されている「議論する」とは、自他の考えを交流することで、一人一人が道徳的な課題を自分自身の問題として向き合い、内省し、熟慮し、自らの考えを深めるのに効果的な学習活動であると考えられる。

具体的には、児童が議論する姿を以下のように捉えた。

- ・ペアで考えたことを伝え合うことで自分の考えを表現している姿
- ・小グループで考えを交流し、いろいろな考えがあることに気付いている姿
- ・学級全体で考えを交流し、他者の考えと比較、関連付けをしている姿

この他にも児童の実態や発達段階を考慮して、伝え合うための手だてを工夫していく必要がある。

道徳的価値について他者と議論を交わし、迷いや葛藤の中で考えを深めていくことにより、他者との価値観を共有することができる。また価値観の共有が、幅広い視野に立って物事を考えることを促し、様々な変化に対して行動していく力を育むことができると考える。

2 調査研究

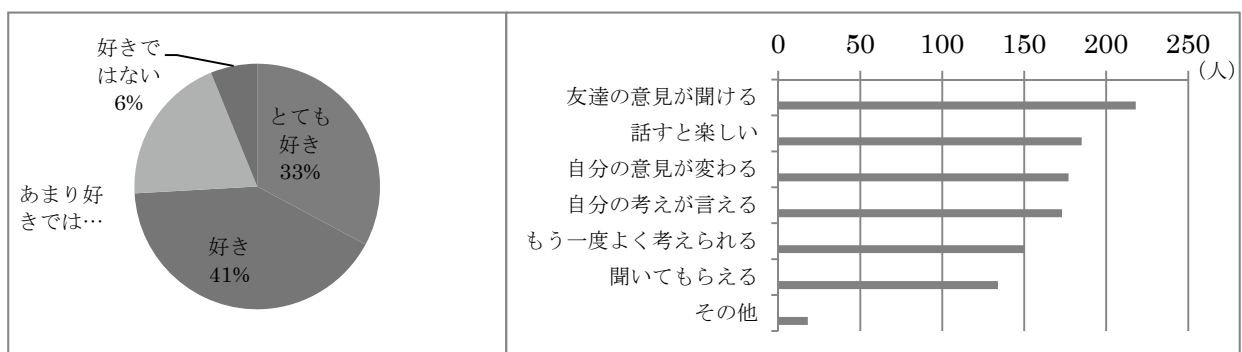
【調査目的】 児童の話し合うこと・考えることに関する意識や実態を調査することにより、研究仮説の根拠にするとともに、授業での発問構成などに生かす。

【調査対象】 都内小学校15校の児童 低学年94人 中学年178人 高学年118人

【調査方法】 質問紙法（全学年共通 選択式）

〈考察〉

(1) 道徳の時間で話し合うことが好きですか。



回答② 回答①を選んだ理由（複数回答可）

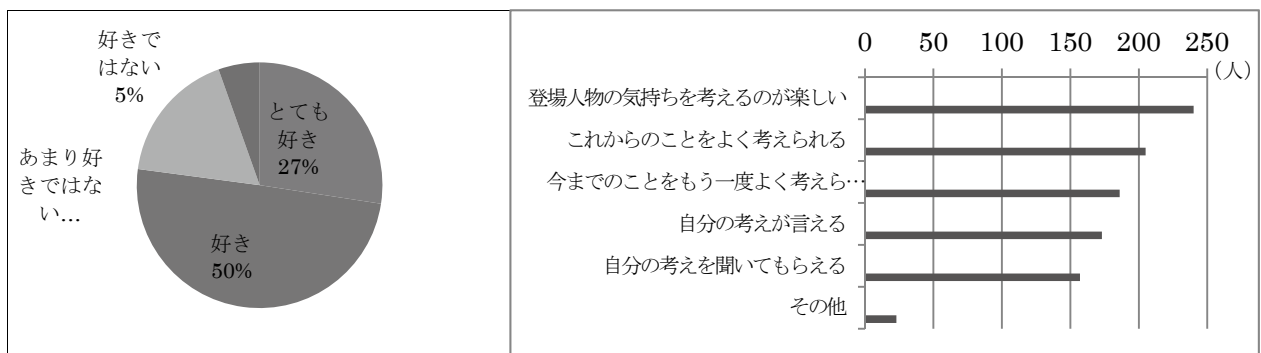
- ・「とても好き」、「好き」と答えた児童の割合が75%でした。その理由として、「友達の意見が聞ける」が最も多く、次に「話すと楽しい」、「友達の意見を聞いて自分の考えが変わる」、「自分の考えが言える」と答えている。このことから、児童は話し合い活動を通して、多様な考えに触れることのよさを実感しているといえる。
- ・一方で、「あまり好きではない」、「好きではない」と答えた児童の割合が25%で、その理由として「自信がない」、「恥ずかしい」、「間違えるのがいや」と続く。このように答えた児童は、自分の意見や考えをもってはいるが、人に話すことに自信のなさを感じていることが分かる。

以上のことから、一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や構築するとともに、多様な意見に触れることができる場の設定や全ての児童が自分の考えを表すことができる手だてを工夫する必要がある。

(2)道徳の時間で考えることが好きですか。

回答① とても好き、好き、あまり好きではない、好きではない の4択

回答② 回答①を選んだ理由（複数回答可）



〈考察〉

- ・「とても好き」、「好き」と答えた児童の割合が77%でした。「とても好き」、「好き」と答えたその理由として、「登場人物の気持ちを考えるのが楽しい」、「これからのことをよく考えられる」、「今までのことをもう一度よく考えられる」と続く。このことから、児童は登場人物に自分を重ね合わせて道徳的価値について考えることの楽しさに気付いている。また、今までの自分やこれからの生き方を考える機会を得ることによさを感じていると捉えることができる。
- ・一方で、「あまり好きではない」、「好きではない」と答えた児童の割合は23%である。その理由としては、「登場人物の気持ちを考えるのが苦手」、「何を考えてよいか分からない」と続く。これらのことから、登場人物と似たような経験をしたことがなかったり、資料や発問の意図を十分に理解できていなかったりする児童がいるのではないかと考えられる。以上のことから、授業の中で児童に経験を思い起こさせ、資料の提示や発問の精選を行うなどの工夫が必要である。

3 研究主題に迫るための手だて

(1)ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用

道徳の時間（道徳科）において、児童が自己の生き方について考えを深めるためには、今の自分が道徳的価値をどのように捉えているかを自覚することが大切である。

そのためには、教師による日常の児童理解に加え、児童の内面的な価値理解を把握するために、実態調査を行い児童の実態を道徳の時間（道徳科）に反映させることが有効である。児童一人一人の実態や学級全体の現状を事前に把握し、授業におけるねらいの設定、授業展開の構成などに生かすことが大切になる。

(2)考えを深める工夫

①資料提示

児童が資料の世界に浸り、資料の内容を深く理解することができるように有効な手だてを十分に吟味することが必要である。

（資料提示の工夫）紙芝居、影絵、パネルシアター、人形劇、ペープサートなどの活用
（補助資料の工夫）BGM、効果音、映像資料、実物資料などの活用

②発問の精選

考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えることができる発問、自分自身のことを深く振り返ることができる発問を行うために日常の児童理解や実態調査を踏まえた発問構成や言葉の吟味が大切である。

③書く活動の重視

書く時間を十分に確保することで、児童が自分の考えにじっくり向き合い、考えを深めたり、整理したりするための重要な機会となる。

児童の思考を把握するための個別指導や意図的な指名を行うためにノートやワークシート、東京都道徳教育教材集、私たちの道徳による記録の蓄積を行う。

④板書を生かす

児童にとって思考を深める重要な手掛かりとなるように、登場人物の思考の流れを対比的、構造的に板書し、明確にする。

⑤心に響く終末

学習を通して、道徳的価値に対して考えたことや、新たに分かったことを確かめたり、更に深く心にとどめたり、これからの自己の願いや課題に向けて意欲を高めたりする。

（例）教師の説話、格言やエピソード、詩、歌、東京都道徳教育教材集などの活用

(3)議論する工夫

他者と伝え合い、自己をより深く見つめるために主体的に議論する場面を取り入れる。

①話合い活動

- ・意図的な指名や座席配置の工夫 ・パネル討議やディベートの活用
- ・ペア、小グループでの話合いなどの集団の工夫
- ・考えの立場や気持ちなどの類別や心情円、グラフなどでの視覚化

②表現活動

- ・動作化・・・動きを忠実にまねして、実感的な理解を深める方法
- ・役割演技・・・特定の役割をもって、即興的演技の中で心情理解を深める方法
- ・実際の場面の追体験や道徳的行為の実践など

③資料や発問の精選

- ・児童が興味をもち、浸ることができる資料を精選し、ねらいとする道徳的価値の理解を深めるための発問を吟味することで、児童が議論し、考えを深められるようにする。

4 実践事例

(1)第5学年

①主題名 謙虚に広い心をもって B 相互理解、寛容

②資料名 「ブランコ乗りとピエロ」(私たちの道徳 小学校5・6年)

③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

調査内容：相手と自分の意見が合わない時の対応方法と、その時の気持ちを記述させる。

調査方法：「寛容、謙虚」における内面的実態を把握するために、事前にアンケート調査を行う。

考察：自分の意見と相手の意見が合わない時、「自分の意見を通す」と答えた児童が7人、「話し合う」と答えた児童が18人、「相手に合わせる」と答えた児童が12人だった。その時の気持ちは、「どうして。」、「ちょっと嫌だ。」、「自分の意見の方が合っているのに。」など、他者と意見が異なる時、児童は自分の考えを見直したり、相手の考えを受け入れたりすることの難しさを感じているということが分かった。

【考えを深める工夫】

ア 書く活動の重視

中心発問では、一人一人がじっくりピエロの気持ちを考えることができるよう、役割演技に入る前に自分の考えを書かせるようにする。記入後、小グループで書いたものを交流する時間を持ち、様々な考えに触れられるようにする。

イ 東京都道徳教育教材集「心たくましく」の活用

導入で使用したアンケートを確認し、他者を「広い心」で受け止めるために今の自分に必要だと思うことを記入させることで、自分の課題を明確にし、これからの生活につなげていけるようにする。

ウ 詩の活用

終末では、道徳的価値の実現の難しさや大切さを感じられるような詩を紹介する。詩を選ぶ際、児童が身近に感じている作者や作品を選ぶようにする。

【議論する工夫】

ア ハンドサインの活用

自分の考えを発表する際には、ハンドサインを使用するようにする。

「指1本」：同じで 「指2本(チョコ)」：違って 「指5本(パー)」：付け足して

イ 役割演技

中心発問では、教師が団員役・児童がピエロ役になり、「サムのことをなぜ許せたのか」を問い、答えさせるようにする。児童が答えた後、更にサムを批判する言葉を足すことで、揺さぶりをかけるようにする。

④ねらい

○道徳教育のねらい

謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心を育てる。

○本時のねらい

ピエロの中からサムを憎む気持ちが消えたのはなぜかを考えることを通して、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を育てる。

⑤本時の学習

	学習活動 (○主な発問 ・予想される児童の反応)	◆指導上の留意点 ●発問の意図 ◇評価
導入	<p>1 価値に関する事前アンケートを提示し、自分自身を客観的に見つめる。</p> <p>○相手と自分の意見や考えが合わない時、どうしますか。 ・自分の意見を通す…7人 ・話し合う…18人 ・相手に合わせる…12人</p> <p>2 サーカスの写真を見る。</p>	<p>●結果を提示し、価値への意識付けをする。</p> <p>●写真を提示し、サーカスのイメージをもたせやすくすることで、資料への導入を図る。</p>
展開	<p>3 資料「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。</p> <p>○大王の前で演技するサムの姿を見つめているピエロは、どんなことを考えているのだろう。</p> <p>・あんなに言ったのに。 ・なんて自分勝手なんだ。 ・一人だけ目立とうとするな。</p> <p>○サムの演技や疲れ果てた姿を何度も何度も思い出して、ピエロはどんなことを考えたのだろう。</p> <p>・サムは力いっぱい頑張っていたんだ。 ・サムの演技は素晴らしかった。 ・私もサムのように一生懸命演技をしよう。</p> <p>◎ピエロの中からサムを憎む気持ちが消えたのはなぜだろう。</p> <p>・サムの頑張りを認めたから。 ・自分もサムと同じだったことに気付いたから。 ・サムもサーカスのことを考えていたんだということが分かったから。</p>	<p>◆紙芝居で教師が範読する。</p> <p>◆サムとピエロの立場や関係を確認しておく。</p> <p>●サムは、なぜそんなに頑張っているのかを問い、自分だけでなく、サーカスのために頑張っている姿に気付かせる。</p> <p>●疲れ果てるほど、懸命に演技をしたサムの姿がピエロの心を打ったことを押さえる。</p> <p>◆ワークシートに記入後、班の中で考えを伝え合う。その後、役割演技を取り入れて、発表させる。</p> <p>●お互いを認め合えたことで、サムとピエロが朝まで共に過ごしたことに触れるようにする。</p> <p>◇ピエロの気持ちを考えるこ</p>

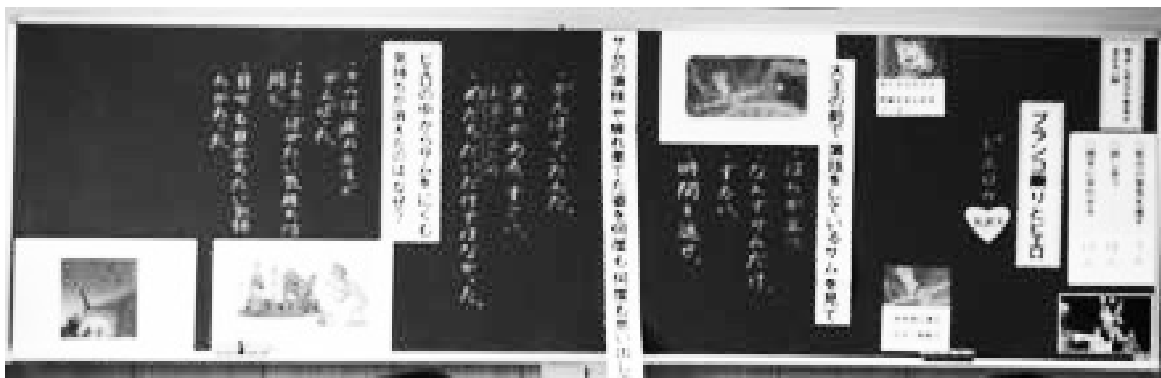
	<p>4 本時の学習・自分の生活を振り返る。</p> <p>○相手を「広い心」で受け止めるために、今の自分に必要だと思ふことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を最後までしっかり聞くこと。 ・相手の立場に立って考えてみること。 	<p>とを通して、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情が高まったか。</p> <p>◆「心たくましく」P113を書かせる前に、「広い心をもつことの大切さや難しさ」について触れる。</p> <p>◇価値について、自分なりに振り返って考えているか。</p>
終末	5 教師の説話を聞く。	相田みつお「せともの」を紹介する。

⑥ 授業記録

教師の発問と児童の反応・発言など	
導入	<p>T: 自分と意見が合わない時、どうしますか？ (アンケート結果)</p> <p>T: 自分の意見を通す人は7人で、「どうして。」という気持ちになるそうです。話し合う人は、18人で、「私の方がいいのに。」「ちょっと嫌だ。」という気持ちになるそうです。相手に合わせる人は12人で、「自分が間違っているかも。」という気持ちになるそうです。</p> <p>C: 話し合うけれど、納得できない時もあるな。</p> <p>C: 友達と意見が違ふと、自信がなくなることもある。</p>
展開	<p>T: 大王の前で演技するサム姿を見つめているピエロは、どんなことを考えているのだろう。</p> <p>C: サムは後から来たのに長く演技をしたり、目立ったりして腹が立つ。</p> <p>C: みんな大王の前で演技をしたいのに、サムだけやっていてずるい。</p> <p>T: ピエロは、サムに対して怒りの気持ちがあったんだね。</p> <p>T: サムの演技や疲れ果てた姿を何度も何度も思い出し、ピエロはどんなことを考えたのだろう。</p> <p>C: サムに時間を使われてしまったけれど、サムも頑張っていたから仕方ない。</p> <p>C: サムは目立ちたいだけではない。実力もあり、一生懸命演技していたサムはすごい。</p> <p>T: サムは、なぜそんなに頑張ることができたのだろう。</p> <p>C: 大王のためだけでなく、見に来たお客さんのためにも演技をしていた。</p> <p>C: サーカスを盛り上げるために頑張った。</p> <p>T: ピエロの中からサムを憎む気持ちが消えたのはなぜだろう。</p> <p>C: サムは、お客さんに楽しんでほしくて演技をしていたから。</p> <p>C: 一生懸命自分のできる演技をした。サムのすごさが分かったから。</p> <p>T: でも、ピエロの時間を奪われてしまったよ。それでも許せるのかな。</p> <p>C: サムは自分勝手なだけじゃなかった。C: サーカスを盛り上げてくれた。</p> <p>T: ピエロのように相手を思う気持ちは大事だけれど、みんなは自分と意見や考えが違ふ時、ピエロと同じように心から許すことができますか。</p> <p>C: できない。 C: 悔しいからできない。 C: 相手が譲ってくれれば、自分もできる。</p>

	<p>T: ピエロのように相手を思いやる心をもつために自分に必要なことは何だろう。</p> <p>C: 相手の意見もしっかり聞いて、その人のことを信じる。</p> <p>C: 相手に合わせるだけじゃなくて、自分の意見もしっかり伝えてお互いに考えていく。</p>
終末	<p>T: 私も相手を思いやる心を大切にしようと心がけています。みんなに一つ詩を紹介します。相田みつをさんの詩を読んで終わりにしましょう。</p>

⑦板書



⑧成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用について】

- ・事前にねらいとする道徳的価値に関する調査をし、本時の導入において活用したことで、児童が現段階で価値をどのように捉えているかを知ることができ、授業前と授業後の意識を比べることができた。

【考えを深める工夫】

- ・中心発問では、役割演技に入る前にワークシートを書かせたことで、児童にじっくりピエロの気持ちを考えさせることができた。
- ・終末での詩の朗読では、児童がうなずいたりつぶやいたりするなど、自分自身のこれまでの生活を照らし合わせて聞いている姿が見られ、1時間を通して価値に向き合わせることができた。

【議論する工夫】

- ・ワークシートに書いた内容をグループ交流させたことで、児童に対して価値に関する様々な考えに触れさせることができた。
- ・役割演技の際、児童に「サムのことをなぜ許せたのか」を答えさせた後、更に教員がサムを批判する言葉を足し揺さぶりをかけたことで、児童にピエロのサムを許した気持ちを更に深く考えさせることができた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用について】

- ・児童自身が授業前と授業後の価値に対する考え方の変容を自覚できるよう、自己の振り返りを書かせる際に、個々の事前調査の回答内容を確認してから記入・発表するように声掛けができればよかった。

【考えを深めるための工夫】

- ・中心発問で、相手の立場を認めることが必要という意見が多く出たが、相手を認めるためには、これまでの自分の考え方や行動を見直してみようとする「謙虚さ」も必要であるということについて、もっと共有させる必要があった。

【議論するための工夫】

- ・グループで交流させる際に、互いの考えについて質問したり、自分の考えと比べながら考えを伝えたりする時間をしっかり確保する必要があった。
- ・「他者を認め、広い心で接することの難しさ」についても展開後段において児童に考えさせる必要があった。

(2)第4学年

①主題名 命あるものを大切にする D 生命の尊さ

②資料名 「人間愛の金メダル」(文溪堂)

③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

調査内容：命についてどのように捉えているか、自分の考えを記述させる。

調査方法：「不思議の不思議(文溪堂)」の授業において、命とはどのようなものかについて記述させた。

考察：児童は、命は大切であるということは知っているが、自分の生活と結び付いていない児童もいる。また、自分の命については考えられているが、他の命の大切さについては、ほとんどの児童が考えられていない。「心配りをしなければならない。」「人の命を優先していきたい。」と考える児童もいるが、自己中心的な行動や、相手を傷付ける発言が見られ、児童が理想としていることと実践が結び付いていない。

【考えを深める工夫】

ア 発問の精選

中心発問では、本時のねらいとする道徳的価値(金メダルも大事であるが、人の命が大事であること。)を理解させるために「顔を見合わせたキエル兄弟はどのようなことを考えているのでしょうか。」と問う。展開後段では、「命について考えたこと」と問い、道徳的価値の理解の深まりや自分の経験について、自分の言葉で記述させる。

イ 書く活動の重視

ノートを自分への振り返りで活用し、心の成長として残していくことで、児童が自らの成長を振り返ったり実感したりできるようにする。

ウ 板書を生かす

児童の価値観の対立が分かりやすくなるように黒板を上下で区切って書くようにする。

エ 東京都道徳教育教材集「心しなやかに」の活用

導入で人見絹枝さんから学んだことを振り返りながら、オリンピックの話につなげる。

【議論する工夫】

ア 話し合い活動

「助ける」、「そのまま行く」の二つの立場に分かれて討議形式で話し合い活動を行う。
その後、立場を変えて再度話し合い活動を行う。

イ ハンドサインの活用

発言に対してハンドサインを使って、教師や児童が目で見確認し相互理解につなげていくことができるようにする。

④ねらい

○道徳教育のねらい

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にしようとする心を育てる。

○本時のねらい

オリンピックでの勝敗が優先か人命が優先かを考えるキエル兄妹の気持ちを考えることを通して、生命あるものを大切にしていこうとする心情を育てる。

⑤本時の学習

	児童の学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	◆指導上の留意点 ●発問の意図 ◇評価
導入	1 オリンピックに出場することの価値について理解する。	◆以前に学習した人見絹枝さん（アムステルダム大会100メートルに出場）の話に触れ、オリンピックに出ることの難しさに気付かせる。 ◆金メダルのレプリカを提示し、勝ちたい気持ちや金メダルの価値に気付かせる。
展開	2 資料を読んで話し合う。 ○いよいよスタートの時、キエル兄弟はどのような気持ちだっただろうか。 ・今までの練習の成果を出したい。 ・国の人々の応援に応えたい。 ◎顔を見合わせたキエル兄弟はどのようなことを考えているのだろうか。 [助ける] ・オリンピックはまだチャンスがある。 ・命は一つしかないから助けないと後悔する。 [そのまま行く] ・4年後にオリンピックに出られるか分からない。 ・助けるのは自分の役目ではない。	◆ヨットの絵を用いて資料のあらすじを先に伝え、資料を理解しやすくする。 ●キエル兄弟のレースにかける思いや勝ちたい気持ちに気付かせる。 ◆討議形式による話し合い活動により、対立した意見を出しやすくする。 ◆板書の工夫により、対立した意見を視覚的に分かりやすくする。 ●「助ける」「そのまま行く」の二つの考えを対立させて話し合うことで、命の大切さをより一層強調させる。 ◇登場人物の考えを理解することを通してオリンピックの勝敗は価値のあるものであるが、命はかけがえのないものであることを考えることができたか。 ●中心発問で引き出した命を大切に考える考えの中から自分のことへの振り返りに活用できるキーワードを引き出してまとめる。

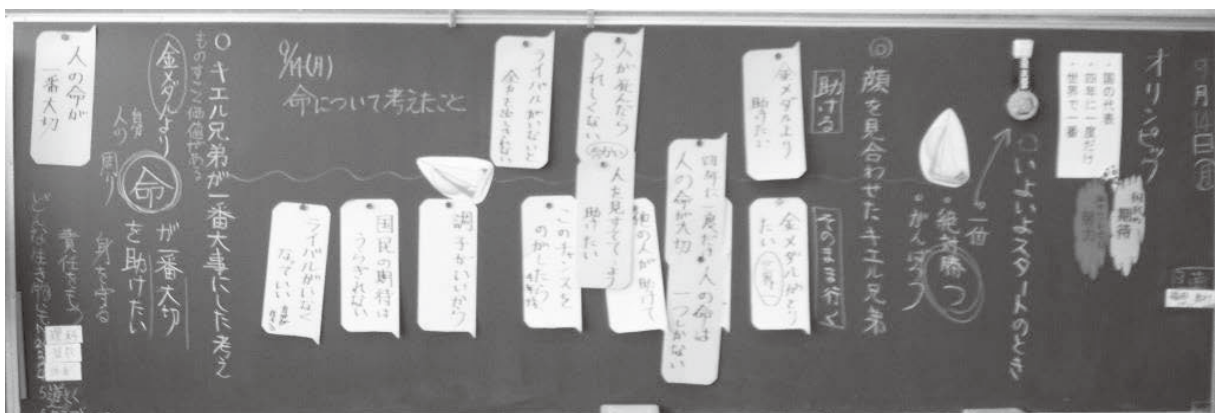
展開	<p>○この中で、キエル兄弟が一番大事にした考えは何だっただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命は一つしかない。 ・金メダルも大事だけど、やはり命はとても大事。 <p>3 自分のことを振り返ろう。</p> <p>○命について考えたことをノートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「命を大切にしたいと言っているけど、命を大切にすることってどういうことだろうか。」と補助発問をすることでさらに考えを深める。 ◆ノートに書くことでじっくりと自分のことを振り返られるようにする。 ◇自分の今までを振り返り、命あるものを大切にしていこうとする気持ちが高まったか。
終末	4 詩の朗読を聞く。	◆自分の命と同様に人の命も大切であることが感じられる詩を紹介する。

⑥授業記録

教師の発問と児童の反応・発言など	
導入	<p>T：オリンピックに出るということは、国の代表ということ、ものすごく努力しないと出られない、いろいろな人の期待、4年に1度のもの（金メダルを提示する。）</p> <p>C：おおっ！本物？！</p> <p>T：今話題になっている2020年のオリンピック。その前にも東京オリンピックがあった。その時のヨットレースのことです。その日は波が荒くて、ヨットから選手が落ちた。追いついたチームの選手がおぼれている人を見つけたときのお話です。</p>
展開	<p>T：いよいよスタートの時、キエル兄弟はどんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>C：1位をとるぞ。絶対優勝するぞ。</p> <p>C：頑張って走り抜けるぞ。</p> <p>T：勝ちたい気持ちが強かったんだね。</p> <p>T：顔を見合わせたキエル兄弟はどんなことを考えたのだろう。</p> <p>※立場を半々に分けて考えさせる。近くの人と話し合った後、全体で話し合う（途中で立場を変える。）。</p> <p>C：金メダルなんていないから助けよう。人の命が1番大切。</p> <p>C：今回は優勝したい。今までの努力が水の泡になる。</p> <p>C：4年に1度のオリンピックだけど、人の命が大事。</p> <p>C：救助の人が来るから、レースを頑張りたい。</p> <p>C：人が死んでしまったら、金メダルをとっても嬉しくない。</p> <p>C：国民の期待を裏切れない。今がチャンス。</p> <p>C：人を見捨てて金メダルを取るよりは助けた方が自分も嬉しい。</p> <p>T：この中でキエル兄弟が一番大事にした考えは何だろう。</p> <p>※黒板に貼った児童の考えを分類していく。</p> <p>T：どれもそうだけど、人の命が一番大切でいいの。金メダルはどうでもいいの。</p> <p>C：欲しいけど…。</p> <p>T：本当は欲しいんだね。でも金よりも命が大切だと思った。</p> <p>T：つぶやきノートを出しましょう。「ふしぎのふしぎ」の学習では自分の命が大事と言って</p>

	<p>いたけれど、他の人の命、自分以外のまわりの命も大事ということかな。今日は命について考えたことを書きましょう。今までの自分、これからこうしていきたいということを書きましよう。</p> <p>C：おじいさんが亡くなってお墓参りに行った時に悲しくて一言も話せなかった。</p> <p>T：命を大切にするとってどんなことか具体的に考えたことありますか。</p> <p>C：自分の身を守る。</p> <p>C：責任をもって死ぬまで生き物を飼う。</p>
終末	<p>T：自分の命の人の命も大切。みんなも体験していると思うけれど、これからも大切にして生きていけるといいなと思います。夏休みに行った美術館で見つけた詩を紹介します。</p>

⑦板書



⑧成果と課題

成果

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査と活用】

- ・ねらいとする道徳的価値についての実態を把握することで、本時のねらいを明確にすることができたため、授業展開の構成を生かした発問構成を考えることができた。

【考えを深める工夫】

- ・児童の多様な考えの中からねらいに迫る考えを引き出すために、発問から予想される児童の反応を詳細に予測し、より良い発問を選ぶことができた。
- ・資料を通して命の大切さについてじっくりと考えたことで、児童一人一人が自分の経験に照らし合わせてしっかりと考えることができた。また、以前に学習した生命の尊さについての自分の考えとの違いを見比べる児童もいたので、書く活動の積み重ねが効果を上げているといえる。

【議論する工夫】

- ・討議形式の工夫は、多様な考えに触れるための手だてとして有効であることが分かった。また、小グループでの話し合いでも多様な考えを引き出すことができ効果があつた。

【その他】

- ・導入で東京都道徳教育教材集を活用したことで、今までの道徳での学習を思い出しながら資料への導入として効果的に活用できた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態調査と活用】

- ・実態調査と本時の学習までの日数が経過しすぎてしまい、児童の実態を本時の学習に反映させることができなかった児童もいた。学級経営等を通して児童の実態把握をしていかなければならない。

【考えを深める工夫】

- ・中心発問での意見を教師が書くのは時間がかかるため、話合いの結果を短冊にまとめさせるなど、児童に書かせることもできた。
- ・まとめが教師主導になってしまった。発問で「一番」を考えさせるのではなく、キエル兄弟が助けたときの気持ちを考えさせる方がよかった。

【議論する工夫】

- ・児童の発言につながりや関連性をより一層もたせられるとよかった。

(3)第3学年

- ①主題名 友達だからわかってくれる B 友情、信頼
- ②資料名 「絵葉書と切手」(学校図書)
- ③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

調査内容：以下の項目について、自分の考えを記述させる。

- ア 友達とはどんなことをしますか。
- イ 信じ合い、助け合える友達はいますか。また、そのような友達は何人いますか。
- ウ 友達は大切だと思いますか。理由も書きましょう。
- エ 友達のことを思っでできたことを書きましょう。

調査方法：「友情、信頼」における児童の内面的実態を把握するために事前にアンケートにより調査を行う。

考察：友達が大切な理由として、36人中、16人が、「互いに助け合えるから」と答えた。また、「遊べなくなると困る」と答えた児童が8人いた。この結果から、友達は助け合える存在と考え、互いに理解し、信頼し合うことの大切さを感じている児童が多いものの、自己中心的に遊ぶ仲間とだけ考えている児童も多いことが分かる。

【考えを深める工夫】

発問の精選

中心発問では、正直に言うことも、言わないことも相手を思いやる上では悪くないことを十分に考え、捉えさせる。その上で、第三発問「どうしてひろ子は料金不足があったことを書こうと思ったのか」につなげ、友情を大切にする上で、一つの正しい判断であることを考え、深めていく。

また、第三発問では、必要に応じて、補助発問として、「どうして、『きっとわかってくれる』と思えたのか」を聞き、相手を信頼することで、決心が深まったことを捉え、よりねらいに迫れるようにする。

【議論する工夫】

話し合い活動

中心発問の際に心情円を使い、正子に言うべきか、言わないべきか、心の葛藤の様子を表すようにする。それを基に教師が意図的指名を行い、話し合いを深めていく。

心情円とは、葛藤場面において、児童一人一人が、対立する二つの考えの割合を円グラフにして、視覚的に表すものです。

④ねらい

○道徳教育のねらい

友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心を育てる。

○本時のねらい

絵葉書のお礼だけでなく、料金の不足があったことを伝えるべきか悩むひろ子の気持ちを考えさせることで、友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする判断力を育てる。

⑤本時の学習

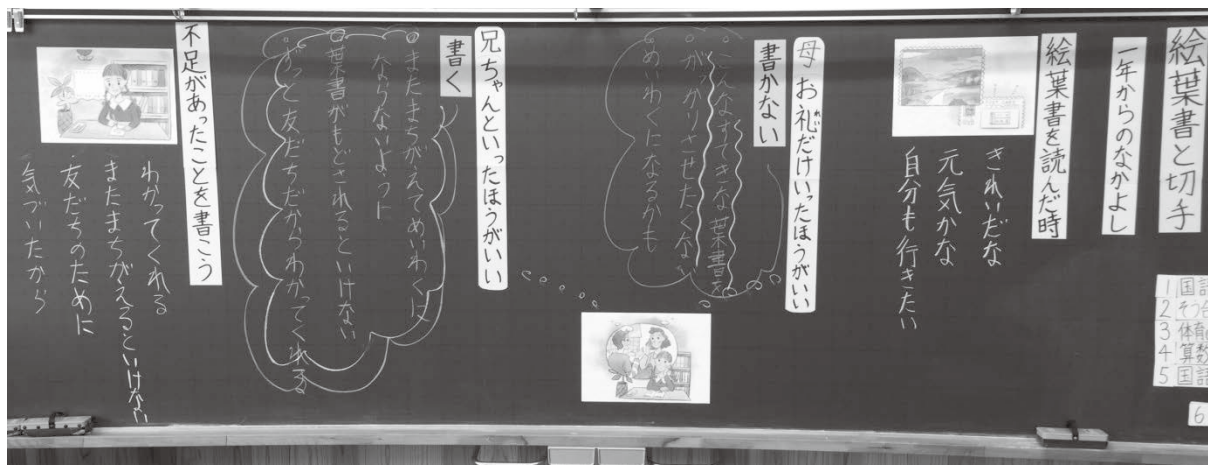
	児童の学習活動 (○主な発問 ・ 予想される児童の反応)	◆指導上の留意点 ●発問の意図 ◇評価
導入	1 葉書と切手代について確認する。	○題名と葉書を掲示する。切手の料金について説明することで資料への導入とする。
展開	2 資料を読んで話し合う。 ○正子からの葉書を読んだ時、ひろ子はどんな気持ちだっただろうか。 ・送ってくれてうれしいな。 ・とってもきれいな場所だな。 ・返事を書こう。 ・料金不足のことは書きたくないな。 ◎ひろ子は、部屋に戻ってどんなことを考えていただろうか。 [書かない方がいい] (心情円：ピンク) ・せっかく絵葉書をもらったから書きたくない。 ・書いたら正子さんが嫌な気持ちになるだろう。 [書いた方がいい] (心情円：水色) ・本当の友達なら書いた方がよい。 ・他の人にも送ってしまうかもしれない。 ○ひろ子はどうして、料金に不足があったことを書こうと思ったのだろうか。 ・他の人にも書いて同じ事をしてはよくない。 ・正子さんならきっと分かってくれる。 ・正子さんのためにも教えた方がよい。	◆事前にひろ子と正子は1年のときから仲良しかったことを確認する。 ●絵葉書をもらってうれしい気持ちと料金不足のことは書きたくない気持ちをおさえる。 ◆母と兄のセリフを掲示し参考にできるようにする。 ◆心情円を全員分配っておき、それを基に葛藤する気持ちを話し合わせる。 ◆対立する二つの意見を色分けして、構造的に板書する。 ●料金不足のことを書くべきか、書かないべきか、迷う気持ちをおさえる。どちらも正子を思いやる上では悪くないことをおさえる。 ◇料金に不足があったことを伝えるべきか悩むひろ子の気持ちを考えることができたか。 ◆必要に応じて補助発問として、「どうして、『きっとわかってくれる』と思えたのか」を聞き、考えを深めたい。 ●相手を信じ、助けようとする気持ちを捉えさせる。

展 開	3 自分のことを振り返る。 ○今日の学習を振り返って、これから仲の良い友達とどのように関わっていきたいですか。	◆ワークシートを用意する。机間指導し、書くことが難しい児童に助言する。 ◇自分の今までを振り返り、互いに理解し、信頼し、助け合おうとする気持ちが高まったか。
終 末	4 「ともだちはいいもんだ」2番を歌う。	◆東京都道徳教育教材集「心しなやかに」P106 全員で歌い道徳的価値への余韻を残す。

⑥授業記録

教師の発問と児童の反応・発言など	
導 入	T: これは葉書ですね。送料は50円。これは普通の封筒で、送料は80円です。これは絵葉書ですが、送料は大きいので120円かかります。 C: えっ?倍? T: 今日のお話では、この料金の違いのために問題が起きてしまいます。それでは、友達のためにどうすることが本当によいことなのかを考えていきましょう。
展 開	T: 絵葉書を読んだとき、ひろ子はどんな気持ちだったのだろうか。 C: 正子さん、元気にしているかな。C: 私も行きたいな。C: うらやましいな。 T: ひろ子は、部屋に戻ってどんなことを考えていたのだろうか。 ※一人一人心情円を出させて、色を提示させる。 【心情円による表現が「書かない方がよい」とする児童の意見】 C: こんな素敵な絵葉書を送ってくれたのに、不足料金のことを書いたら、相手もがっかりしてしまうだろうから、お礼だけ書いておいた方がよいと思う。 【心情円による表現が中間である児童の意見】 C: やっぱり、こんなに綺麗な絵葉書きを送ってくれたと思うと悪い。でも、書いておかないと他の人にまたこの絵葉書を送るかもしれないから書いた方がよい。 【心情円による表現が「書かない方がよい」とする児童の意見】 C: 友達だし、それを書いても分かってくれると思うから書いた方がよい。 T: ケンカにならないの? C: でも一年生の時からの仲良しだら、きっと分かってくれる。 ※どちらも相手のことを考えており、悪いことではないことを確認する。 T: どうして、料金に不足があったことを書こうと思ったのだろうか。 C: 正子さんなら分かってくれるから。C: また同じ間違いをしては大変だから。 T: 皆さんの友達とはどうですか。ひろ子さんや正子さんのような関わりが、できていますか。 自分の今までを振り返って、これからどうしていきたいかを書きましょう。 C: 仲の良い友達と助け合ったり、教え合ったりしていきたい。自分はやってもらうことの方が多かったと思う。これからは、もっと仲良く助け合っていきたい。 C: 友達の悪い癖や間違ったことがあったら、教えてあげたい。友達のことを考えて行動して、友達を大切にして増やしていきたい。
終 末	T: 「ともだちはいいもんだ」は道徳の副読本にも載っています。皆さんで歌いましょう。 ※東京都道徳教育教材集「心しなやかに」P106『ともだちはいいもんだ』2番をギター演奏で歌う。

⑦板書



⑧成果と課題

成果

【考えを深める工夫】

- ・振り返りの時間を十分に確保することで、ほとんどの児童が「友だちとの関わり」について詳しくワークシートに書き、考えを深めることができた。

【議論する工夫】

- ・教師が児童の心情円を基に意図的指名をすることで、児童がより深く考えられた。
- ・児童の考えを深めていくために、教師が意見を全体に広げていくことも効果的な方法だと思われる。

【その他】

- ・児童との温かい関係を見ることができた。道徳においては、学級経営を中心として一人一人が自分の考えや感じ方を伸び伸びと表現できる雰囲気を構築することが大切であることを再認識した。
- ・終末で歌を歌ったことで余韻を残しながら穏やかな雰囲気で授業を終えることができた。

課題

【考えを深める工夫】

- ・料金不足を「書かない」と「書く」児童それぞれの考えへの揺さぶりをすることで、自分自身のことを深く振り返らせることが必要である。

【議論する工夫】

- ・心情円の活用の仕方を考える必要がある。児童自ら動かした心情円を全体に見せながら、自分の意見を言う中で、もう少し意見のやり取りをする必要があった。
- ・いろいろな意見を聞いて、途中で心情円に変化を与える場があってもよかった。
- ・ペアやグループなど児童間の意見交流があった方がよかった。
- ・議論をどの場面で活用するのかについて、発達段階に応じて考えていく必要がある。振り返りの場面で用いることも考えられる。

【その他】

- ・補助発問により、「でも…」という揺さぶりがあると、児童の考えを深められた。

(4)第1学年

①主題名 しょうじきな心 A 正直、誠実

②資料名 「あのね」(東京書籍)

③研究主題に迫るための手だて

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

調査内容：以下の項目について、自分の考えを記述させる。

ア 正直になれなかったことがありますか。

イ それは、どんなときでしたか。

ウ そのとき、どんな気持ちになりましたか。

エ もし、いけないことをしてしまったときに、そのことをすぐに話すことができますか。

調査方法：「正直、誠実」における児童の内面的実態を把握するために事前にアンケートにより調査を行う。

考察：「正直になれなかったことがある」と答えた21人は、そのときの気持ちを「悲しくなる」「しょんぼりする」などと答え、普段より暗い気持ちになることを自覚していることが分かった。しかし、心の暗さを自覚してはいても、話すことができる児童は21人中14人で、7人はあまりできない、できないと答えている。いけないことをしてしまったときには、謝ることの大事さは分かっているが、その難しさを感じていることが分かった。

【考えを深める工夫】

ア 資料提示

教師が内容を暗記し、語り聞かせる。十分に間をとり、感情の変化に合わせ抑揚を付けて、登場人物の心情を捉えやすくすることで、資料理解を深める。

イ 発問の精選

児童の考えを自分の言葉で表現させるために、資料に記述されていない場面を中心発問とする。

【議論する工夫】

ア ハンドサインの活用

友達の発言にはハンドサインを出して意思表示をさせる。発言した児童と教師の一问一答ではなく、全員で聞き合って考えを深めていくという意識をもたせる。そうすることで、友達の考えに質問をしたり、理解したりしようと話し合い活動に興味関心をもって臨むことができるようにする。

イ 役割演技の活用

自分の言葉で表現することで、道徳的価値に対して考えを深められるようにする。

④ねらい

○道徳教育のねらい

うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する心を育てる。

○本時のねらい

正直に謝ってスッキリした気持ちになることを知ったチッチがトービーの手を引く時の気

持ちを考えて、うそをついたりごまかしたりしたままにせず、素直に伸び伸びと生活しようとする心情を育てる。

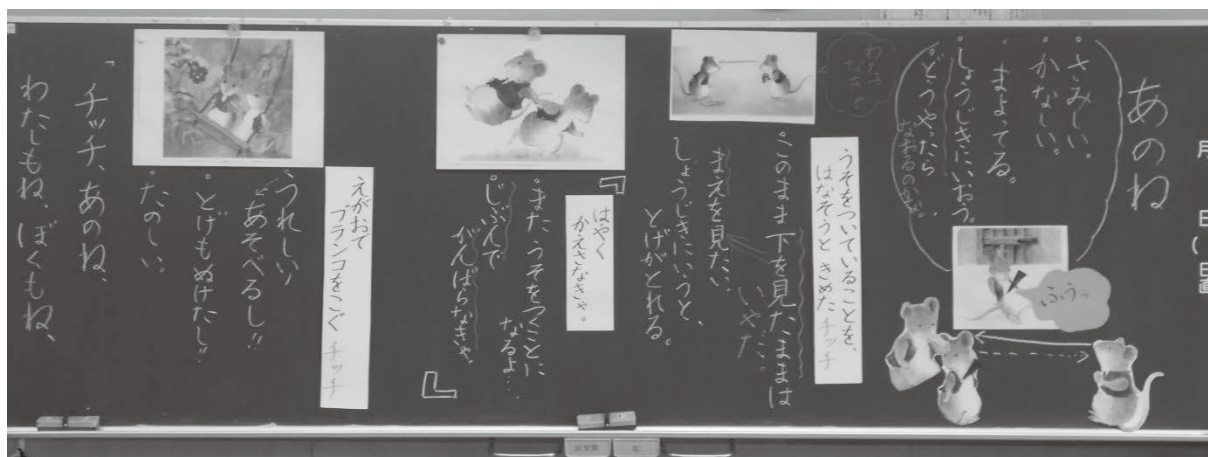
⑤本時の学習

	児童の学習活動 (○主な発問 ・ 予想される児童の反応)	◆指導上の留意点 ●発問の意図 ◇評価
導入	1 自分の生活を振り返ったアンケート結果について考える。	◆アンケートの集計結果を提示することで、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開	<p>2 資料「あのね」を読んで話し合う。</p> <p>○「ふうっ」とため息をつくチッチはどんなことを考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう遊ぶこともできないな。 ・このままトービーとは遊べないのかな。 ・今言ったら、トービーは何て言うかな。 ・知らないって言わなきゃよかった。 <p>○チッチがうそをついたことを話そうと決めたとき、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう、ちくちくするのはいやだ。 ・早くすっきりしたい。 ・トービーに悪いな。 <p>○チッチは「はやくかえさなきゃ」のあと、トービーに何と言ったでしょう。</p> <p>【役割演技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だって、さっきまで僕も同じ気持ちだったもん。 <p>○「今は違うの?どうしたらドキドキがなくなったの?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トービーに本当の事を言ったからだよ。 ・早くお兄ちゃんに本当の事言った方がいいよ。 <p>○「どうして?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言わないと、ドキドキはなくならないよ。一緒に謝りに行こう。 <p>○笑顔でブランコをこぐチッチはどんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしいな。もうチクチクしない。 ・言ってスッキリしたな。 ・これでまたトービーと遊べるな。 <p>3 自分自身を振り返って考える。</p> <p>○トービーと笑顔でブランコに乗ることができたチッチに、自分のことを伝えながら手紙を書いてみましょう。</p>	<p>◆紙芝居で語り聞かせをする。</p> <p>●トービーから顔を背けたり。目が合うと何も言えないチッチの後ろめたさ、また、遊ぶことさえできなくなったチッチの状況を十分理解させて発問することで、「知らない」と言ってから続く心の重苦しさに気付かせる。</p> <p>●ずっと続いた心の重苦しさに耐えきれない気持ちやトービーの優しさに触れトービーに誠実でいたいという気持ち、やっぱりうそはいけないという気持ちが「正直に話す」ことへの後押しになったことに気付かせる。</p> <p>●うそをついたままにしたことで長く続いた心の重苦しさを体験し、正直に話してスッキリした気持ちを知るチッチが何とトービーに話すのか、ここで児童が役割演技をして話す台詞は、本時のねらいとする価値に迫り、深めてきた児童の考えである。</p> <p>◆教師がトービー役をやって下記の切り返し発問をしながら、考えを深めて出させる。</p> <p>◇トービーに素直に言うこと、言っただがすがしくなることを教えるチッチの気持ちを考えることができたか。</p> <p>●本当の事を言い、すがすがしい気持ちになったチッチたちの気持ちに気付かせる。</p> <p>◇うそをついたままにせず、本当の事を言って清々しい気持ちになることよさを理解し、自分もそうしていききたいという気持ちを養うことができたか。</p> <p>●「ぼくもね」「わたしもね」の言葉を入れて、児童が自分のことを書き出しやすいようにする。</p>
終末	4 「心しなやかに」の詩を紹介する。	◆余韻をもって本時を終えられるようにする。 東京都道徳教育教材集「心しなやかに」P98

⑥授業記録

教師の発問と児童の反応・発言など	
導入	<p>T:皆さんの事が知りたくてとったアンケートを覚えていますか。結果を見てみましょう。 ※結果の確認をする。</p> <p>T:正直になれなかったときに、どんな気持ちになるのか考えていきます。</p> <p>T:今日の話にはチッチとトービーが出てきます。チッチの表情に気を付けたり、気持ちを考えたりしながら聞きましょう。</p>
展開	<p>T:「ふうっ」とため息をつくチッチはどんなことを考えているのでしょうか。</p> <p>C:うそをついてしまって、悲しい。寂しい。</p> <p>T:何が寂しいのですか。</p> <p>C:一緒に遊びたいけど、遊べなくて。</p> <p>C:やっぱり言おうか迷って困っている。</p> <p>T:うそをついていることを言おうとしたときのチッチはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>C:あの車、僕が持っていた、ごめんね。</p> <p>C:もう、うそはやめよう。</p> <p>T:ずっと言えなかったのに、なぜ言えたのだろうね。 今までと何か違ったのかな。どんな気持ちだったのかな。</p> <p>C:言えないことがここでは言えたんだ。</p> <p>T:どうしてここで言えたのですか。</p> <p>C:このまま下を見たままは嫌だから、前を見たいと思って。</p> <p>C:早く返さなきゃ。あとからやる気が出てきて。</p> <p>T:どうして「返さなきゃ」という気持ちが大きくなったのですか。</p> <p>C:今がチャンスだと思った。</p> <p>T:チッチは「はやくかえさなきゃ」のあと、トービーに何て言ったんだろう。</p> <p>※ペアでの話合いのあと、全体の前で役割演技を行う。チッチは児童、トービーは教師が演じる。</p> <p>C1:早く返さなきゃ。またうそをつかなきゃいけないよ。</p> <p>T:でも心配なんだ。</p> <p>C1:ついて行ってあげるよ。</p> <p>T:どうして。</p> <p>C1:だって正直に言った方がいいよ。</p> <p>C2:早く返さなきゃ。うそだってばれちゃうよ。</p> <p>C2:じぶんで頑張らなきゃ。</p> <p>C3:早く返さなきゃ。お兄ちゃんが車を探してここを通ったら、だめだから早く行こう。 お兄ちゃんに見つからないように。</p> <p>T:こっそり返したら良いということかな。 ※ここで児童が答えに詰まったため、全体に投げかける。</p> <p>T:こっそり返したらいいのかな。</p> <p>C:ドキドキはなくなる。自分で言わないと。</p> <p>T:笑顔でトービーとブランコに乗るチッチはどんな気持ちでしょう。</p> <p>C:うれしい。うそのことも言えて遊べてうれしい。</p> <p>C:とげも抜けて、友達と会えて、遊べてうれしい。</p> <p>T:笑顔でブランコに乗るトービーに何って言ってあげますか。自分のこと伝えながら手紙を書きましょう。</p> <p>C:うそをなおせたから良かったね。とげも痛かったけど、抜けて良かったね。</p> <p>C:チクチクが抜けて良かったね。私もうそをついたことがあったけど、本当のことを言ったよ。</p>
終末	<p>T:今日のチッチをあらわすような詩があったから紹介します。 ※東京都道徳教育教材集「心しなやかに」P98の詩を音読する。</p>

⑦板書



⑧成果と課題

成果

【考えを深める工夫】

- ・資料提示では、間や抑揚を効かせていた。児童はじっと拡大した場面絵や教師の話を聞いて、語り聞かせによって児童を資料の世界に浸らせることができていた。

【議論する工夫】

- ・児童はどの発問にもハンドサインをよく出していた。友達の発言が聞こえないときもハンドサインを出し、聞くことへの意識の高さが表れていた。

課題

【考えを深める工夫】

- ・語り聞かせによる資料提示は児童を資料の世界に引き込むことはできたが、話している台詞が二人の登場人物どちらの台詞なのか混同して、正しく資料を理解できていないように思われた。台詞に合わせて登場人物の絵を動かすなど、どちらの台詞なのか分かる手だてが必要だった。
- ・中心発問のように資料に記述のない箇所を答えるのは1年生にとっては難しい。ねらいとする反応を聞き出せず、切り返しの発問が多くなって児童は答えに詰まっていた。ねらいする価値に迫る考えが出る箇所を中心発問として設定する必要がある。

【議論する工夫】

- ・役割演技をする前には、ペアで自分の考えを伝え合った。全体の前で教師と行った役割演技ではねらいとする反応が出ずに、切り返しの発問が多くなり3、4往復程度のやり取りをした。そのため、ペアで行ったことと、全体の前での役割演技の内容の隔たりが出て、児童を混乱させた。難しそうだという思いや、役割演技はできなさそうだという思いを抱かせて、発表したい意欲をもたせることができなかった。ペアでの取組の前に役割演技のやり方を明確にし、「バッチ」などを付けて立場も明確にさせる必要があった。

【その他】

- ・ねらいが児童にとって難しかった。ねらいを簡潔にする必要がある。
- ・どの発問も中心発問になり得るものばかりで、どれも同じように深く考えることを児童に求めてしまって時間が足りなくなってしまう。発問の精選が必要である。
- ・展開後段は手紙を書くのではなく、「うそをついたことを正直に話してスッキリしたことがありますか。」など、価値に対する自己の振り返りがよりできる発問の設定が必要である。

VI 研究の成果と課題

成果

(1)基礎研究

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成27年7月）を基に、自分たちの実践と照らし合わせ研究を進めたことで、理論と実践、両面から研究を深めることができた。特に、「考える道徳」、「議論する道徳」の捉え方について話し合ったことで、道徳の時間における手だてや具体的な児童の姿について共通理解できた。

(2)調査研究

- ・児童が道徳の時間において「話し合うこと」、「考えること」をどのように考えているか調査したことで、好きな理由、嫌いな理由、学んだことを実生活にどう生かしているか、児童の実態を明らかにできた。
- ・実態を基に、児童の思考を一層深めていくための方針を考えることができ、授業改善につながった。このような実践を積み重ねていくことが大切だと分かった。

(3)授業研究

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

- ・事前調査をしたことで、児童の道徳的価値に対する内面的な実態を把握することができ、授業づくりに生かすことができた。また、結果を授業で活用したことで、児童の道徳的価値の理解が広がったり、深めたりすることができた。

【考えを深める工夫】

- ・資料提示、役割演技や心情円、討議形式、ワークシートの活用など、資料や学級の実態に合わせた工夫により、登場人物の気持ちをじっくり考えることができた。
- ・調査分析をもとに発問を吟味したことで、児童の発言を活かした授業展開となり、ねらいに迫ることができた。
- ・振り返りの時間を十分に確保することで、自分自身の考えを深めたり、将来のことについて考えたりすることができた。

【議論する工夫】

- ・役割演技、討論形式、心情円など、考えを伝え合う工夫を行ったことで児童の内面と向き合った考えを引き出したり、互いの考えを理解したり、共有したりすることができた。

課題

【ねらいとする道徳的価値に関する実態把握と活用】

- ・児童の内面的な実態を把握するための質問内容や質問時期を吟味する必要がある。
- ・事前調査と児童の変容を結び付けるための学習指導過程を工夫する必要がある。

【考えを深めるための工夫】

- ・児童の考えを広げたり、深めたりするための授業展開や発問の工夫を行う必要がある。
- ・考えが深まったことへの評価方法を吟味する必要がある。

【議論するための工夫】

- ・児童が議論したい、議論する必要があると思う発問を準備する必要がある。
- ・発達段階に応じた手だてや道徳的価値の理解を深めるための十分な時間を確保する必要がある。

平成 27 年度 教育研究員名簿
小学校・道徳

地区	学校名	職名	氏名
千代田区	九 段 小 学 校	主任教諭	保延 秀紀
中 央 区	常 盤 小 学 校	主幹教諭	藤山 由仁
港 区	港 南 小 学 校	主任教諭	鈴木 陽子
文 京 区	根 津 小 学 校	主幹教諭	古都 直
江 東 区	浅間堅川小学校	主任教諭	○山口 真
澁 谷 区	神 南 小 学 校	主任教諭	江川 剛志
杉 並 区	永 福 小 学 校	主任教諭	徳永 里美
練 馬 区	光 和 小 学 校	教 諭	大平 美里
練 馬 区	中 村 西 小 学 校	主任教諭	吉田 裕美
江戸川区	南小岩小学校	主幹教諭	◎根本 義久
三 鷹 市	第 一 小 学 校	主任教諭	室町 雅代
小 平 市	小平第三小学校	主任教諭	安西 優也
国 立 市	国立第七小学校	主任教諭	四本 由利
稲 城 市	若葉台小学校	主任教諭	三浦 豊
あきる野市	西秋留小学校	主任教諭	竹縄 光雄

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 伊藤 公志

平成27年度
教育研究員研究報告書

小学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成27年度第197号〕

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社